

# イチゴ新品種「チーバベリー」の作り方

千葉県農林総合研究センターではイチゴ新品種を育成し、愛称「チーバベリー」として商標登録されました



PVP

登録品種名：千葉S4号  
登録番号：第24428号  
品種登録者：千葉県

## 「チーバベリー」の特徴

果実は大粒で果汁たっぷり  
食味が良く、甘みに加えてほど良い酸味  
果実はきれいな円錐形で、鮮やかな赤色  
うどんこ病に抵抗性  
多収で特に3月以降に獲れる

## ◆栽培暦

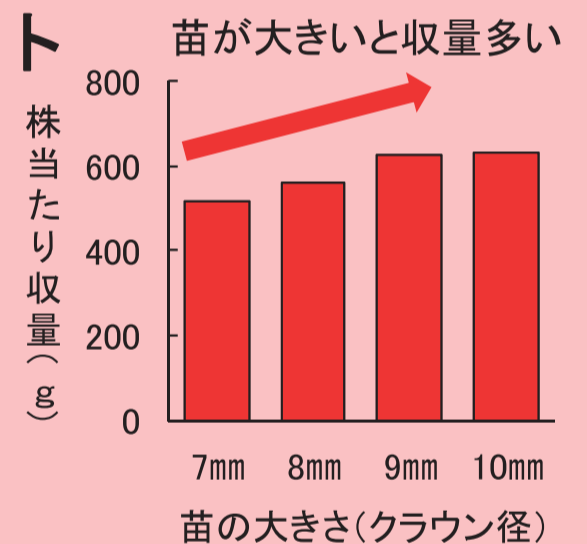
	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1~4月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
ポット育苗	● 親株定植・保温 防除 (以降定期的に行う)									△ 鉢受け適期						▲ ランナー切り離し						○ 定植						☆ 開花・追肥開始 マルチ張り 保温開始			■ 収穫開始		

## 「チーバベリー」で大粒の果実を生産するための重要なポイント

- 充実した苗を作る  
クラウン径9mm以上の苗を育苗するため7月中旬までに鉢受けする
- 必ず花芽分化した苗を定植する  
定植日目安は9月25日頃、花芽未分化や分化初期の苗は避ける
- チップバーンの発生を抑える  
基肥は10a当たり窒素成分で12kg以下とし、追肥主体の施肥とする  
活着後はpF1.7を目安に2~3日間隔でかん水する



定植時の苗の目安(9cmポット)



## ◆栽培方法

### ポット育苗

- 親株の準備  
親株からの採苗株数を25株程度と見込み、3月上旬までに定植する。秋定植はプランターに2株植え、3月上旬定植は3株植えとし、3月以降は25℃を目安に保温して生育を促す。
- 鉢受け  
7月中旬までに鉢受けし、3週間程度で切り離す。  
切り離しから定植までの育苗日数は50~70日を目安とする。
- 育苗時施肥量  
9cmポットを利用する場合、育苗中の施肥は株当たり窒素成分量100mg (IB化成S1号中粒2粒程度)を標準とする。

### 施肥

基肥は10a当たり窒素成分で12kg以下を標準とする。  
追肥は11月中旬から液肥を用いる。1か月に10a当たり窒素成分で1~2kgを数回に分けて施用する。

### 病害虫管理

うどんこ病に強く、開花期までの防除を適切に行うことで収穫期の発生を少なくできる。炭そ病、萎黄病、ハダニ、アザミウマ等の害虫防除は他の品種と同様に防除する。

### 定植とその後の管理

- 定植  
花芽分化は9月25日頃が目安となる。  
花芽分化を確認したら直ちに定植する。  
畝幅110cm、株間20cm、2条千鳥植えを標準とする。
- かん水・マルチ  
定植後14日間程度は1日数回かん水を行って活着を促す。  
活着後は2~3日間隔でかん水を行う。  
マルチは頂果房が出蕾する11月上旬を目安に行う。
- 温度管理・草勢維持  
定植後は換気に努め、ハウス内の最低温度が10℃を下回る頃(10月下旬)から夜間天窓やサイドを徐々に閉める。  
10月下旬以降は日中温度25℃を目安に換気を行い、収穫始めの草高が23cm程度になるよう管理する。  
収穫期は日中25℃、夜温5℃を標準として管理する。

### 開花・収穫

頂花房の開花は11月中旬、収穫開始は12月中下旬、腋花房の開花は12月下旬~1月下旬となる。  
3月以降は日中換気に努め、果実の温度上昇を抑え、果皮色が濃くなりすぎないように収穫間隔を短くする。